

松平忠雅肖像画

個人蔵

歴代の忍城主を勤めた人物の肖像画について、現在所在が確認されているのは、文禄元年（1592）から慶長5年（1600）まで城主を勤めた松平忠吉のみです。成田家の当主や松平信綱の肖像画も見つかっていませんし、阿部家も忍藩主時代の当主の肖像画はなく、明治時代に榎倉藩知事を勤めた阿部正功の幼少時の肖像画があるのみです。松平下総守家については、かつては歴代の当主の肖像画がありました。ところが、その多くは現在所在不明となっており、確認できるのは初代松平忠明と今回紹介する3代目松平忠雅の2人です。

松平忠雅は天和3年（1683）、松平清照の長男として生まれた。祖父は陸奥国白河藩15万石の当主松平忠弘です。本来は清照が家督を継ぐはずでしたが、病弱なため嫡嗣され、親戚から松平忠尚を養子として迎えました。ところが忠尚は養父忠弘を差し置いて藩政の実権を握り、黒



松平忠雅肖像画

屋敷馬を家老に取り立て、対立する家老奥平金弥らを藩政から締め出しました。これにより、松平家の家臣は2派に分かれて争うようになり、ついには元禄5年（1692）に家臣93人が藩を出奔する事態となりました。幕府は忠弘に対して、10万石に減封のうえ山形へ転封、黒屋と奥平の家老には遠島を命じました。この御家騒動を白河騒動といえます。処罰を言い渡した幕府の老中は忍藩主阿部正武でした。この後、家督を継いだ忠雅は山形から備後国福山藩主を経て、宝永7年（1710）に伊勢国桑名藩主となり、その112年後の文政6年（1823）に松平忠堯が忍へ国替えとなりました。

本肖像画は東帯姿の忠雅を描いています。上半身の一番上に着る袍には松平家の家紋である九曜紋と、袍によく用いられる輪無唐草文様が配された意匠となつています。太刀の鞘と平緒、上袴にも九曜紋が配されています。御家騒動の後を受けて松平家の安泰に力を尽くした忠雅の威厳が表情からうかがい知れる画像です。

（郷土博物館 鈴木紀三雄）

特定非営利活動法人
行田のぞみ園

障害を持つ方が社会的活動を自力で行えるよう、訓練、実習、生産活動の他、全般的な生活面での援助を行い、障害者福祉に寄与することを目的に平成15年から活動しているのが、特定非営利活動法人行田のぞみ園です。

同法人の運営する施設の利用者が作るパウンドケーキやクッキーなどは、市内外のスーパーマーケットの店先や市役所ロビーなどで販売されています。素材を生かした丹念な焼き上がりで、今では冠婚葬祭用のギフトとしても注文を受けるほど好評だそうです。

また、製造だけでなく販売も、利用者自身が同法人のスタッフとともにっており、購入していくお客さんの「おいしい」という声が活力になっています。

今後の目標は、インターネット販売を始めることだそうです。現在、同法人のホームページを制作中。これからも、同法人の希望溢れる活動は拡大していくことでしょう。

【理事長】川嶋 和子 【電話番号】553-3102

つながる ひろがる みんなのチカラ

～市民公益活動団体紹介～⑩



市役所ロビーでの販売の様子

今月の表紙

9月12日、中央小学校3年生がマイ足袋作りを体験しました。

これは市内の小学3年生を対象に行田の足袋の歴史を学ぶ社会科の一環として実施されたもの。生地に思い思いの絵柄を描いた児童たちは、世界に一つだけの足袋が出来上がるのを心待ちにしているようでした。

市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。

市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

市報をダイジ版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。



環境にやさしい
植物油インキ

市報ぎょうだは
再生紙を
使用しています